

植村清（一） ウツムラキ 東洋史學者。明治二十四年一月大阪生れ、昭和六十一年五月二十七日歿（一九〇一—一八七）。大正十四年東京帝國大學文學部東洋史學科卒。松山高專學校、新潟高等學校各教授を経て、昭和二十四年新潟大學教授、四十一年國士館大學教授。小説家直木三十五の實弟。著書『萬里の長城』（昭和十九年十一月二十日創元社「創元選書」）。再刊『万里の長城—中国小史』（五十四年二月十日中央公論社「中公文庫」）、『國史新話』（昭和二十四年十一月二十日大學書房）、『アジアの帝王』（昭和二十一年八月二十五日洋々社）、『神武天皇—日本の建國』（昭和二十二年十一月二十五日至文堂「日本歴史新書」）、『中国史十話』（昭和二十四年十一月二十日中村書店「世界の歴史」、再刊、二十五年四月十五日中村書店）、『諸葛孔明』（昭和二十九年五月十五日筑摩書房「グライムズ・シリーズ」）、『教養として—の中国史』（昭和四十年十一月十六日講談社「講談社現代新書」）、『歴史と文芸の間』（昭和五十一年一月二十五日中央公論社、再刊、五十四年十一月十日「中公文庫」）、『丸善百年史・上巻』（木村敏共著、昭和五十五年九月十八日丸善株式会社）、『楠木正成』（平成一元年二月十日中央公論社「中公文庫」）等。

